

事業終了地域における代表的な成果事例

静岡中部エリア

(一般型:平成14年度~16年度)

『心身ストレス克服をめざした高感度バイオマーカーを用いた評価システムの構築と食品、医薬品素材の開発』

食品産業界に新規食品分野を創出

静岡県中部地域のライフサイエンス系大学等の「知恵」を活用して新しいシーズを生み出し、新規事業を創出した。GABA(γ-アミノ酪酸)が人のストレスを低減することを見つけ、GABA入りチョコレート等の新規食品が上市され、売り上げ高は平成17年度には40億円、平成18年度には85億円に達した。



岡山西部エリア

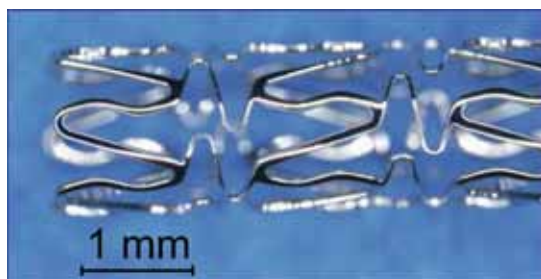
(一般型:平成14年度~16年度)

『国際競争力のある冠動脈用高性能ステントの開発』

精密・微細加工技術の高度化を継続的に進め、高度医療機器へ展開

岡山県では岡山版産業クラスターの形成を目指す「ミクロものづくり岡山創成事業」を推進しており、この取組の中で、都市エリア産学官連携促進事業(一般型)で培った精密・微細加工技術をさらに高め、設計、加工、表面処理、評価技術等のものづくり技術の融合により、国際競争力のある冠動脈用高性能ステント(血管拡張材)が開発された。

08年、ヨーロッパで販売される見通しである。



播磨エリア

(一般型:平成14年度~16年度)

『量子ビーム技術による新機能材料の開発』

『パルスプラズマイオン注入成膜装置』開発グループが、第2回ものづくり日本大賞優秀賞を受賞

本事業で開発したDLC(ダイヤモンドライクカーボン)厚膜技術が、「環境と安全と省エネに優れたDLC厚膜を大型産業製品に広めたイオン注入・成膜技術」として認められ、(株)栗田製作所、(有)プラス、兵庫県立大学及び産総研のグループが受賞した。

成果の事業化では、栗田製作所がDLCコーティングの受託事業で5,000万円/年に成長、同装置販売も2~3台/年の実績があり、(有)プラスは同装置の真空装置製作を担当し、同社の主力商品の一つに成長している。



久留米エリア

(一般型:平成15~17年度)

『テーラーメイド型医薬・診断薬及び疾病予防機能性食品の開発』

研究成果から遺伝子導入試薬及びラクトフェリン入り化粧品を商品化

久留米バイオクラスターの形成を目標に、医薬品・診断薬・バイオツール等の研究開発を積極的に展開した。多数の商品開発が進んでいる中で、遺伝子機能研究や遺伝子治療の目的で高効率に遺伝子を細胞内へ導入する試薬、及び牛乳からチーズを取った残渣からラクトフェリンを高効率に分離・精製して成分化した化粧品を商品化した。



遺伝子導入試薬



ラクトフェリン入り化粧品

函館エリア

(一般型:平成15年度~17年度)

『ガゴメ及びイカの高付加価値化等に関する開発研究』

特産物であるガゴメ昆布とイカの高付加価値化を進め、多数の商品化を展開

「函館国際水産・海洋都市構想」に基づき、地域の水産資源であるガゴメ昆布やイカに着目し、増産技術や機能性成分の抽出技術等を確立し、多数の地域企業を巻き込んで、18年度までに68品目の商品化を展開。商品売上、増産・取引価格の上昇等により17億円を超える経済効果を創出。



千葉・東葛エリア

(連携基盤整備型:平成14年度~16年度)

『高領域画像高速取得顕微鏡の病理診断への応用』

既存技術・製品の改良、高機能化を進め、付加価値を高めた新たな商品市場を開拓

既製品の「高領域画像高速取得顕微鏡」の機能高度化を目指し、病理細胞の撮像用ソフトウェアを開発、PCディスプレイ上で多焦点表示、観察可能なバーチャル顕微鏡の商品化に成功した。本件を含め、全8件の可能性試験において試作品化あるいは商品化に成功、平成17年度で2億7千万円の売上を創出。



多焦点表示ディスプレイ

北上川流域エリア

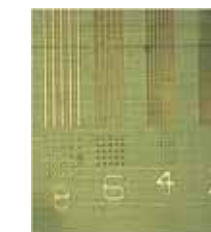
(一般型:平成14年度~16年度)

『トリアジンチオール有機ナノ薄膜の高機能発現研究開発』

トリアジンチオール技術の社会還元を行う大学発ベンチャーの創出に発展!

トリアジンチオール有機ナノ薄膜の活用研究を行い、プリント配線基板、六価クロムエッチング不要樹脂メッキ及び異種材料間の接着技術などの分子接着技術を社会還元するベンチャー企業、(株)いおう化学研究所(社長:前田雅也、〒020-0066岩手県盛岡市上田4-3-5、コラボMIU)を平成19年4月に設立し、トリアジンチオールの製造販売、試作委託、アライアンス事業、技術相談、技術開発などの業務を行っている。

主な試作品



L/S:2μmを実現、樹脂基板上での有機トランジスタの実現性高まる



自動車樹脂めっき部品

筑波研究学園都市エリア

(成果育成型:平成14年度~16年度)

『都市生活支援インテリジェント情報技術』

フルーエンシ情報理論をベースに、高音質・高画質のCD・DVDプレーヤーを実現

筑波大・寅市教授の「フルーエンシ情報理論」に基づき、音響・静止画・動画などマルチメディアの高品質化を展開。音響・映像のフルーエンシDA変換ICは、音響・映像機器メーカーに供給され、ハイスペックCD・DVDプレーヤーとして商品化されている。平成18年度には約90億の市場を形成している。また、携帯電話の「着うた」の音質向上にも貢献した。

